

プロスポーツチームスペシャル対談

子どもの夢を育むため連携



サッカー・明治安田生命 J3リーグ
福島ユナイテッドFC
AC福島ユナイテッド



バスケットボール・TKbjリーグ
福島ファイヤーボンズ
福島スポーツエンターテインメント



プロ野球・ルートインBCリーグ
福島ホープス
福島県民球団

本県スポーツ界にとって、2014、2015シーズンは歴史に残る節目となる。福島ユナイテッドFCがJ3に参入し、福島ファイヤーボンズ、福島ホープスが産声を上げた。大震災からの復興のシンボルとして、県民から大きな期待を受けている。このほど、3チームの運営会社代表が集い、「プロスポーツでふくしまっ子の未来を創る」をテーマに意見を交わした。



- AC福島ユナイテッド 代表取締役 鈴木勇人氏
- 福島スポーツエンターテインメント 代表取締役 宮田英治氏
- 福島県民球団 代表取締役社長 扇谷富幸氏
- コーディネーター 石河美奈氏 (ふくしまスポーツコミュニケーションズ代表)

扇谷 本日は本県にあって、プロスポーツでふくしまっ子の未来を創るというテーマで、3チームの運営会社代表が集い、「プロスポーツでふくしまっ子の未来を創る」をテーマに意見を交わした。このほど、3チームの運営会社代表が集い、「プロスポーツでふくしまっ子の未来を創る」をテーマに意見を交わした。

「ホームゲームでお待ちします！」



子どもたちにスポーツの魅力伝える

扇谷 野球場を訪れた子どもたちも、特設コーナーでバスケットボールやサッカーを楽しんでもいいですね。各ホームゲームが開催される週末、街全体がそのチームカラーに染まったりするといえます。試合が重なっている時は、カラフルになったり、そのためには商工団体や行政の協力もお願いしたいですね。鈴木 3チームの試合がある週末「ふくしまスポーツウィーク」にしようとか、各会場を回るシャトルバスを連携して運行したらどうかなどを考えました。日程や会場のりがどうございました。

石河 先日、福島市で開かれた福島ファイヤーボンズのホームゲームでは、福島ユナイテッドFC、福島ホープスのお二人が会場を訪れ、自らのホームゲーム来場を呼び掛けるなど、非常に良い関係での連携が図られていますね。今後さらに、相乗効果を生み出すような取り組みをお考えでしたら、教えてください。

扇谷 野球場を訪れた子どもたちも、特設コーナーでバスケットボールやサッカーを楽しんでもいいですね。各ホームゲームが開催される週末、街全体がそのチームカラーに染まったりするといえます。試合が重なっている時は、カラフルになったり、そのためには商工団体や行政の協力もお願いしたいですね。鈴木 3チームの試合がある週末「ふくしまスポーツウィーク」にしようとか、各会場を回るシャトルバスを連携して運行したらどうかなどを考えました。日程や会場のりがどうございました。

鈴木 プロチーム連携でスポーツ立県宣言を宮田 スポーツ観戦文化をつくるのが大切扇谷 球場で他競技も楽しめるイベントをふくしまスポーツコミュニケーションズ 石河氏(以下、石河) チームの活躍は、将来、スポーツ選手を夢見る子どもたちの希望や目標となることはもとより、スポーツへの関心を高め、体を動かす機会づくりに直結します。まずは、子どもたちの交流活動について教えてください。

福島ユナイテッドFC 鈴木氏(以下、鈴木) 普及と育成を分けて考えます。普及活動はボールで遊び楽しむことです。そこでは、クリスマスに合わせたサンタクロースの格好で教えたりするなど工夫しながら展開しています。サッカー協会が定める育成システムでは教室を開く際、まず基本技術の蹴る、止める、運ぶを伝えます。そこから上達すれば、戦術的な部分に入る。個性をいかに伸ばすかが重要ですね。

福島ファイヤーボンズ 宮田氏(以下、宮田) 子どもたちに運動する機会を提供することを目的に活動しています。来場を促すためにどのような取り組みを行っていますか。

宮田 2月28日と3月1日の福島開催は、両日とも2千人を超え、選手の励みになりました。さらに集客を図るために、屋内スポーツならではの魅力を伝えていきます。目の前で2倍を超す大きな外国人がジャンプしたり、日本人が外国人を抜き去るスピード感を味わってもらいたい、それを伝えていきます。

扇谷 ポールパーク構想を掲げている

福島ホープス 扇谷氏(以下、扇谷) いわき市発祥で、キャッチボールの正確さとスピードを競う「キャッチボールクラシック」の普及に取り組みます。お母さんや娘さんたちでもできます。いわき市の子どもたちは上手で、プロ野球選手たちが負けてしまうくらいレベルが高いです。また、野球は教育の一環と捉えて、礼儀や道具の大切さなども伝えていきたいです。子どもとして学ぶべきことを身に付けたいという野球が好きなことを浸透させたいです。

石河 やはりプロの真剣勝負が目の前に繰り広げられるのは、子どもたちにとって大きな刺激になると思います。来場を促すためにどのような取り組みを行っていますか。

宮田 2月28日と3月1日の福島開催は、両日とも2千人を超え、選手の励みになりました。さらに集客を図るために、屋内スポーツならではの魅力を伝えていきます。目の前で2倍を超す大きな外国人がジャンプしたり、日本人が外国人を抜き去るスピード感を味わってもらいたい、それを伝えていきます。

扇谷 ポールパーク構想を掲げている

都合上、難しい面もありますが、常にそういった意識を共有することが大事だと思います。3チーム連携のポスターなども面白いですが、連携することで、スポーツ立県宣言につながると思います。

宮田 スポーツを見る人は、いろんな競技を見ることが多いと思います。スポーツ観戦という一つの文化をつくるのが大切です。見る文化をつくるため、その魅力をどう伝えていくかが重要です。競技の枠組みにとらわれず、子どもたちが体を動かすきっかけをつくることも必要です。3チームの選手が集まってスポーツ教室ができるといいですね。

石河 チームが勝利すれば、会場に笑顔の花が咲き、その感動と興奮を家族や友人にうれしそうに話す。今度は一緒に「ようよう」という一言が、スポーツを通じたつながりに発展します。最後に、チームの目標と、子どもたちへのメッセージをお願いします。

扇谷 日本、世界の舞台で活躍してきた岩村明憲監督の魅力を感じてもらいたいですね。ホープスはこれから始まるシーズンですが、参入初年度の優勝を狙っています。戦力的にも整いました。スポーツである以上、一番上を目指します。

宮田 まずはプレーオフ進出を目指します。厳しい状況ですが、どんなことがあると最後まで泥臭く、走りぬくことが大切です。そして、子どもたちがチームを身近に感じ、将来、ファイヤーボンズに入りたいと思えるチームを作ります。

鈴木 昨年積み重ねたことをレベルアップさせて優勝を目指します。特に今年から福島市出身の茂木弘人選手がJ1神戸から来ました。一流選手がプレーを体感してほしいですね。サッカーの楽しさと真剣勝負を発信しながら、スタジアム構想の扉を開くことに頑張っています。

石河 最近、新聞紙面がみなさんのユニホームで非常にカラフルになりました。メディアを通じて皆さんを身近に感じてほしい、また、復興のシンボルチームが躍動すること、県民の交流の輪が広がることを信じています。本日は本当にありがとうございました。

本県を拠点に活動するプロスポーツチーム

■東北フリーズレイズ

2008年10月発足。2009-2010シーズンから東北地方初のトップリーグチームとして誕生。チーム名には「氷上を自由自在に翔けあがり、「鋭く切り拓いていく」などの思いが込められている。ホームタウンは郡山市と青森県八戸市。

■福島ユナイテッドFC

東日本大震災や原発事故後の困難を乗り越え、2011年東北リーグ初優勝。2013年をJFLの舞台で戦い、2014年からJ3の舞台に立つ。チーム名には「選手・スタッフ・サポーターが「ひとつ」に」との思いを込めた。ホームタウンは福島市を中心とする県内全域。

■福島ファイヤーボンズ

ボンズ(Bonds)とは、絆や結束を意味し、2014-15シーズンよりbjリーグに参戦している。「福島県を元気に」を旗印とし、チームとして結束することで観る人が燃えるような熱い試合を目指している。ホームタウンは県内全域。

■福島ホープス

2014年6月、BCリーグに正式加盟。同年7月に球団名、マスコットキャラクターを発表。2015年からBCリーグに参戦する。県民が野球を通じて色々な「望み」を抱く一助になればとの思いから「望み=HOPE」と命名した。ホームタウンは県内全域。